

新聞に掲載されました

2022.11.25(金) 読売新聞

総合診療科部長・家庭医療専門医 平岩 千尋 医師

福山市立車の浦学園5年生と地域の医師や理学療法士らが協力し、鞆町について考える体験型の講座「子ども主体の地域診断プロジェクト」を進めている。
プロジェクトは、子どもたちが地域で暮らす人たちと対話し、暮らしに関する様々な出来事に目を向け、課題の発見につながるとして10月からスタート。最初はお年寄りを対象とし、今後対象者を広げるという。
5年生約30人は21日に4、5人のグループをつくり、「地域のお年寄りの健康」をテーマに町内の集会所など計3か所で、70歳代前後の男女計約20人から「体」「生活」「心」について的心配事について聞き取った。

メモを基に22日は「家族と一緒に暮らしていない」などと、お年寄りが心配している事を付箋に記して台紙に貼り付け、「体に変化があっても気づいてもらえない」など影響について考え、「新聞を手渡しで配達してもらおう」など解決策まで考えた。
山川寿都さん(11)は「お年寄りの心と体を少しでも癒やしてあげられるよう、動物と触れ合うアニマルセラピーをやってみたい」と話した。子どもたちを指導した家庭医療専門医の平岩千尋さん(33)は「お年寄りには、医師に話さないことも子どもたちには話してくれた。貴重な情報から健康課題も見えてきた」と手応えを感じた様子だった。

鞆の課題 児童が探る お年寄りに健康聞き取り



お年寄りから聞き取った情報をまとめる児童ら(福山市で)